



26 委員会所管（特定）事務調査報告書（会規 7 2、7 3 関連）

R06 熊議委第 000014 号

令和 6 年 11 月 20 日

熊取町議会議長 河合 弘樹 様

総務文教常任委員会委員長	文野 慎治
副委員長	渡辺 豊子
委員	坂上 昌史
委員	坂上 巳生男
委員	田中 圭介
随 行	議会事務局長 東野 秀毅
	議会総務課長 野津 博美

所管（特定）事務調査報告書

本委員会は、令和 6 年 9 月 27 日付け、R06 熊議委第 00012 号で通知した所管事務（視察研修）について、下記のとおり調査を実施したので報告します。

記

1. 調査期間 令和 6 年 10 月 23 日（水）、24 日（木）
2. 調査地 京都府京丹後市、兵庫県丹波篠山市
3. 調査概要 別添のとおり

決 裁 決 定				
議 長	局 長	課 長	係	合 議
河合	東野	野津	坂上	

総務文教常任委員会報告 <兵庫県丹波篠山市>

報告者 総務文教常任委員会委員長 文野慎治

丹波篠山市の紹介

古代の丹波は但馬、丹後を含む大きな国でしたが、奈良時代に丹波・但馬・丹後の3国に分割された。

その後、明治の廃藩置県で、丹波市・丹波篠山市は兵庫県に編入された。

令和元(2019)5月1日「篠山市」は「丹波篠山市」に市名変更した。

しかし、「丹波篠山」がどこを指すのか混乱や誤解が広がり、生産地表示では「丹波篠山」の表示を控えるよう県の啓発指導が始まるなど、先人から受け継がれてきた「丹波篠山」ブランドを守り活かすことを目的とした。

- ・ 人口 39,295 人 世帯数 17,860(令和6年7月時点)
- ・ 総面積 377,61 km² 東西に 30 km 南北に 20 km
- ・ 市域の 75%が森林、水田 13%、宅地 2.3%、道路 2.0%

1 オーガニックビレッジ宣言について

(1) オーガニックビレッジを始めたきっかけは

令和3年5月に国がみどりの食料システム戦略を策定したことを受け、令和4年1月に丹波篠山市認定農業連絡協議会と市長・議長の懇談会で認定農業者からの取組提案がきっかけ。

(2) 有機農業を導入するための具体的な支援策や既存農家への補助制度、有機農業を希望する新規就農者に対する研修プログラムや支援制度は

- ・ 環境創造型農業直接支払交付金《国》、水田活用直接支払交付金《国》
- ・ 有機農業者で組織する団体活動を支援《市》
- ・ 学校給食に提供する有機野菜について市場価格の差額を支援《市》
- ・ 有機農業者による農業塾や座談会を開催

(3) 有機農業を活用した観光振興への展開状況について

- ・ 地域主体のマルシェが開催されるようになり、オーガニック志向の観光客の来場があった。(R6.5.25・R6.7.20・R6.11.16 予定)
- ・ 市内飲食業組合と有機農業者が連携し、オーガニック食材を使用した料理教室やマルシェが試行的に開催予定。(R6.11.30 予定)

(4) 地元の学校と有機農業の普及や食育に関する取組について

- ・ 令和3年度から有機野菜を学校給食に提供。
- ・ 令和5年度から有機 JAS 転換中のお米を「有機チャレンジ米」として学校給食

に提供した(R5.10.30~11.1)

- ・有機栽培農家が市内小学校で冊子の配布や食農授業を実施し、児童や保護者の理解を深めた。

(5) 通常農業と比べた場合の収益性やコスト面での課題があるか

- ・有機栽培は、慣行栽培に比べ天候や病害虫の影響を受けやすく、収穫量も下がる。

《令和6年産水稻栽培収穫実績》

慣行栽培 471.0kg/10アール

有機栽培 427.0kg/10アール

《市内で20年以上有機栽培に取り組む農業者の声》

有機栽培で野菜を作る場合は、2~3ha規模で家族経営が適している。

販売先は、量販店、飲食店、一般消費者などバランスよく固定客として取引し、時期による価格変動が小さい学校給食への出荷も組み合わせている。

(6) 有機農産物を地域ブランドとして確立することによる、ふるさと納税返礼品戦略があればご教示ください

- ふるさと納税返礼品等の活用に向けた戦略は、今後の検討項目。現在は、有機農産物の生産量が少なく、農家個々に販売している。今後、有機農産物が増加すれば返礼品として活用する予定。

(7) オーガニック給食で提供している食材、メニューは何種類か

給食の食材は、献立に合わせて約2週間前に調達する。有機野菜調達団体に「納品の可否」「納品可能な量」を確認し、有機野菜を使用している。

- * 令和5年度の使用品目は、にんじん、ホウレンソウ、小松菜、水菜、キャベツ、ニンニク、西洋カボチャ、玉ねぎ、ジャガイモ、なす、ピーマン、きゅうり

* オーガニック野菜の品目と使用料

令和3年度 10品目 約1.000kg

令和4年度 14品目 約1.400kg

令和5年度 12品目 約1.800kg

(8) 週に何日くらいオーガニック給食を提供しているか

(7)のとおり、現状は有機野菜納入団体が納入可能な日に使用している。

(9) オーガニック給食を始める前後での食材費等の差はどの程度か

有機野菜の一般卸売価格と学校給食卸売価格の差額は、農政部局の有機野菜給食食材補助金により支援している。(R5:148,315円)

(10) 児童、生徒や学校職員の反応は如何か

市内の学校では、日々給食ノートを活用して、児童・生徒から給食の感想を聞いている。オーガニック野菜を提供した場合は、「今日の人参は、いつもの人参よりも甘くておいしかった」等の感想を頂いている。

☆丹波篠山市有機農業のめざす姿(将来イメージ)

- ① 丹波篠山の自然や生物を守るための農業が、市内各地で実践されている
- ② 多様な農家が、それぞれの農業の「実践できるかたち」を確立している
- ③ 「黒大豆」の有機栽培技術が、関係機関や地域農業者と連携しながら確立されている

視察のまとめ

○丹波篠山農都宣言 《2009(平成 21)年 2 月 7 日》

丹波篠山市は食の安全と安心を未来にわたって育み、篠山特有の自然を生かし、農業の新たな先駆者として更なる振興を実現するため、

- 1 「いのち」を支える「農」を未来に育みます。
- 1 「農」を支える「人・土・水」を大切に育みます。
- 1 「丹波篠山」を支える「特産物」を育みます。

を基本理念として、「自然の気候風土に恵まれた日本一の農業の都、丹波篠山市」をここに宣言します。

○丹波篠山市農都創造条例 《2015(平成 27)年 4 月》

○丹波篠山市農都創造計画 《2017(平成 29)年 3 月》

丹波篠山市は、農業の都をめざすという目標を市民に対し明確に示すことにより市民の共感を得て、様々な新たなチャレンジを行っている現実を知りました。担当職員さんの新たな農業施策への取組の説明も、農家さんとの日々の信頼関係を実感できる明るく楽しそうに説明する姿に感銘しました。行政が発する宣言・条例・計画が市民との間で机上の論になっていない丹波篠山市は地方行政のお手本になると感じました。今回の視察は農業施策に対するテーマでしたが、行政と市民との関係性(住民ニーズと行政施策の意思形成の明確化とスピード感等)、議会としては施策が住民目線で提起され判断しているか等、地方自治の基本である二代表制が農業施策において機能している現実を確認できているお手本に接した充実した視察研修になりました。熊取町でも、より高みを目指してあらゆる分野で参考にしたい体験でした。